

西上州 鷹止山（ヤブ山登山）・桐ノ城山（ハイク） 報告

【日程】2015 年 12 月 30 日（水）～31 日（木）

【メンバー】CL 柘植秀樹、SL 石橋きよみ・加藤洋子・澤田路子

【天候】12/30 晴れ 12/31 晴れ

【鷹止山（たかおとめやま）行程】12/30（水）

8：05 小平（駐車）－10：50 三角点（945m）－11：05 鷹止山－大福峠－11：30 林道 11：55
－13：50 朝通過したヤブ路－14：10 小平駐車場、乗車－ヴィラせせらぎ（入浴）
一道の駅万葉の里（泊）

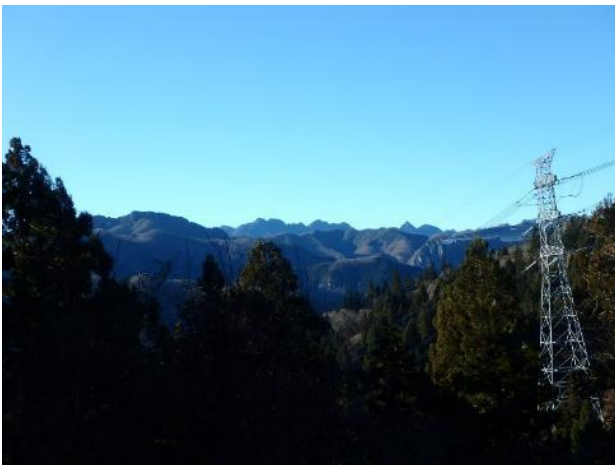
帰省ラッシュをさけてかなり早い出発時間としたのが幸いだったのか、ほぼ当初の予定通り現地到着。路上ではあるが駐車可能なスペースに車を置いてスタートする。といっても集落の中を人家の裏手、廃屋らしき別荘地帯の敷地内、そして竹やぶなどヤブとも登山道とも思えない場所を無理やり通過していくリーダーについていくのみ。何回か車道、林道も横切りながら現在地もよくわからない状態で尾根を目指して適当に登っていく。途中手の届くところにあったたわわに実のなった柿の木から、ちょこっと柿をいただくとこれが甘ーい！最近では里山に収穫されていない柿の木をよく見かけるが、農家さんの高齢化で収穫する手がなく放置されているとか。



民家の裏から尾根末端にとりつく



結構なヤブを漕ぎぬけると展望地



遠く赤岩尾根の鋸歯が見える



熟した柿をおいしくいただく

やたら衣類につきささる種？の枯れやぶも突破し、「こりゃ寝る時ちくちくして大変」とつつる衣類に着替えたりする。たぶん地形図上で半分くらい来たところで、平坦地に出て日だまりでとろとろと一息。両神山 赤久縄山 浅間山 オドケ山などがよく見えている。ほどなく広い採石場が出現し、石積みの小山があり、大型バスが放置されている所でやっと地形図での現在地が確認できる。



836m標高点で休憩



地図の岩記号は露天掘りの跡だった

ここから明瞭な尾根にのってしばらく登ると一等三角点（945m）。両神山がぐっと間近になり、叶山の石切り場がよく見える。すぐ下にはりっぱな作業道夏焼線があるがいろいろ名前がついているこの作業道の位置関係が地図上ではわかりにくい。さらに尾根をゆるく登って行くうちにいつの間にか本日の目的地鷹止山へ到着。かろうじてプレートがあるからわかるが、尾根の一部という感じで全く山頂らしくない。証拠写真をとって先へ急ぐ。



鷹止山への最後の登り



鷹止山の山頂標識

しばらくは明瞭な尾根を進み、途中から樹林帯の斜面を適当に下って大福峠を目指す。重機や切りそろえて並べられた杉の丸太が樹林帯のあちこちにあって作業道だらけなのもうなずける。林道を横切って再び尾根筋を拾って下り、884mあたりの鞍部から下に見えるガードレールのある林道を目指して落葉の急斜面を滑らないように慎重にくだる。ひょっとして今日一番の難所かも？

ヤブ好き柘植さんはダイレクトに斜面を下降、女性群は急がば回れで、かすかな踏み跡をたどって最後の高さのある擁壁をかわして道路に出る。柘植リーダー、最後はロープを出してごぼうでこの擁壁をクリアした様子だったが、到着にあまり時間差はなかった。風の無いところで小休止をするために移動しようとしたところ、後ろから呼び止める柘植さん。何とストックを擁壁の上に置き忘れたとのこと。それを回収すべくロープを出してビレイをとってなどなど、あの手この手で回収に時間をくうこと 30

分。ありがちなことだが、状況と忘れた物によっては、ヒヤリハットになったかもしれない出来事だった。やれやれと昼食をとったあと、桜中沢線という作業道を利用して船子川沿いの林道を車まで戻る予定でいたが、真っ暗な植林帯の中の作業道がかなり荒れている様子だったので踏みこんだもののすぐに戻って素直に林道を下ることにする。1時間半ほど、周辺の西上州の山々を眺めながらのんびりおしゃべりを交えて下っていく。加藤さんも柘植さんに劣らず西上州の大ファンらしく、周辺の山に精通していて30年前のコースの記憶も鮮明なのはさすが加藤さん！！最後は朝通ったヤブ路に入って見たおぼえのある廃屋別荘や竹やぶを確認しながら、車を止めたところにポンと出る。

ヴィラせせらぎに車を走らせ、道の駅でテントを張る日没までゆっくり温泉につかり、居座って時間調整。泥棒さんのように暗くなったころ道の駅にテントを張り、石橋さんセレクトの豪華な寄せ鍋に舌づつみを打って、適度なお酒にほろ酔い気分でぬくぬくと素敵なお年の瀬を過ごす。しかし夜中暴走族君らが現れて、やたらにバイクのエンジンを大ふかしして、しばし安眠を妨げられたのが一点の曇り、とはいえテント回りにいろいろ置いてあった物への被害はなくかわいいものだった。

【桐ノ城山行程】12/31(木)

4:30 起床 6:00 道の駅発—6:30 医療センター駐車—7:00 登山口—8:10 若御子山
—9:30 桐ノ城山—10:40 オドケ山 11:00—13:10 駐車場)

起床時間より30分早く目覚めてしまったリーダーの一声で早起きし、さくっと朝食を食べて出発するが、地図上にあるPがどこかわからず近辺をうろうろした結果、医療センターの駐車場が大丈夫そうだったので、そこに駐車する。今日はヤブではなくノーマルハイキングルートということで、なんとなくお気楽スタートである。学校裏を目印に適当に斜面に点在するお墓を通り抜け、道路に出てしばらくいくと桐ノ城山への道標を発見。毎度のことながら集落や里山の付近はわかりにくくて迷う。本日は予報通り少し曇りがちな空模様だが、昨日も見えたピラミッド型の山がくっきり出迎えてくれ、両神山も眼前に迫る。相変わらず気温は高く、汗ばんですぐに衣服調整。しばらく行くと、トレランの大会があったのか神流マウンテンランコースのプレートが現れ、ここからは随所に出てくる。いよいよ山道となる若御子山登山口の標識からは落葉の絨毯の急斜面を登り、竹林と杉植林の混じったジグザグ道を過ぎると、明るい気持ちのいい若御子尾根に出る。



若御子尾根のおだやかな登り



樹林の間から西御荷鉾山を望む

周りの山にはっきりと朝の陽ざしが当たり、背中にぬくぬく太陽、冬枯れの木立の陰が落葉の絨毯に長い縞模様をつくりだして何とも美しい。こんなことに気持ちが動くのは年をとったせいかも。ほどなく若御子山南峰に着き、正面にこれから登るオドケ山、桐ノ城山を見ながら尾根伝いにわずかなアップダ

ウンを繰り返すうちに、若御子山北峰に到着。



若御子山南峰の山頂



東西の御荷鉾山を望む

トレラン大会のテープの残骸がどっさり置き去りのままひらひらと風になびいているのがちょっと残念である。その先石尊山の山頂を踏んでひと下り、ロープがフィックスしてある西面岩場を超えると石祠が出てきて、そこから尾根をはずれてほんのひと登りで展望のない桐ノ城山山頂となる。なぜかかわいい魚型の手書き山頂プレートが囲んで最後の記念撮影。



桐ノ城山の岩場の裾を巻く



桐ノ城山の山頂は展望がない

またひと下りで尾根に戻り、しばらく進んだ頃加藤さんがいつも手に持って絶えずまわりの山々を確認していた地図がないことに気づきちょっとざわざわ。ザックをひっくり返して探しても見当たらず、休んだ時忘れたのかもとの残念な気持ちになっていたところ何とリーダーが二つ持っていたことが後から判明する。結果オーライとはいえ探している時の加藤さんの必死さは手にとるようで、我がことのようにほんとに安堵。

桐ノ城登山口右、秋葉峠左へと分ける分岐からショートカットして道はずれ、樹林帯をトラバース。すると前を歩いていた加藤さんがただならぬ悲鳴をあげて急に方向転換する様子に何事かと思ったら、お腹がぽっかり食いぎられて内臓の色もまだ生々しい鹿の死体が見えた。死んだあとにやられたのか、やられて死んだのか、こんな低山で誰の仕業なんだろう。そういえばさっきから上空でカラスがやたら賑やかだったし、かなりの腐臭があたり一面漂っている。小ぶりだけど熊の糞もあった。自然の摂理とはいえ痛々しい。

あまり見ないようにして右下に見える林道に向かって斜面をいっきに下り、林道に出てまもなく登山口からおむすびのようにはっきり見えていたオドケ山に向かう。かわいい石祠があって案外広い山頂を踏んだあとは適当にショートカットして斜面を下り車道に出る。ふと見渡すと遠くの山から近くの山まで何層にも渡って山の端が織りなす淡いグラデーションが素敵に目にうつり、ちょっとお得気分になりながら、あとは花街道と名づけられたりっぱな車道をのんびりと下るのみ。その名の通り花の時期は桜や梅やアジサイが見事だろう。



秋葉峠に降り立つ



オドケ山の山頂

いろいろエピソードがあったが、年末にふさわしいお楽しみ山行も無事終了できて、リーダーはじめメンバーの皆さんに感謝です。帰りはみんなで年越しそばを食べようと三芳PAに寄ったが、海鮮丼の魅力に負けて年越し海鮮丼を食し、予定通り紅白歌合戦が始まる前にちゃんと帰宅できました。

澤田路子（記録）